



《現状把握》

数学の学習意欲に課題がある。そのため、知識、活用ともに正答率が低い。個別の支援の必要性がある。また、計画的に学習することを苦手としている生徒が多く見られる。国語の関心が高く、特に読書の習慣がついている生徒が多い。課題としては伝統的な言語文化に関する問題での正答率が低かった。各教科で小テストや課題を与えることによって学習習慣を身に付けさせるとともに、補習を充実させ、基礎基本の定着を図る必要がある。

《授業改善のポイント》

言語活動としての取り組みは全国平均値と同じであるが、「話す力」「聞く力」の正答率は全国平均に満たない。今後、よりうまく伝えるための工夫や、相手の意見の受け止め方についても身に付けさせたい。数学では基本的な問題を反復して行うとともに、個別の支援を充実させ、基礎基本の徹底を図る。漢字コンテストや計算コンテストなどの取り組みを通して、成就感をもたせる。すべての教科で、「授業に集中する」「わからないことをそのままにしない」ことを徹底させる。将来の夢や目標をもっている生徒の割合が全国平均より少ない。高校進学だけでなく、人生設計を含めた進路指導を行い、夢をもつ機会を増やしたい。

《チャートの特徴》

「規範意識」「言語活動」「自尊感情」「生活習慣」で肯定的な回答は全国平均値とほぼ同じである。「学習習慣」の肯定的な回答は全国平均値より低い。国語は「国語への関心」が全国平均を上回っている。それが、「国語の知識」「国語の活用」の力に結びついている。数学は、「数学への関心」が全国平均値よりかなり低い。「数学の知識」は正答率で8%、「数学の応用」は正答率で5%平均を下回っている。経年変化を見ると、徐々にではあるが、学力が向上している。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭からの、授業参観や学校行事への参加は全国平均を上回っている。そのような機会にも家庭学習の充実についてはたらしかけ、家庭学習のできる環境を一層整えていく。また、漢字コンテストや計算コンテスト、スペリングコンテストなどの結果も学年だよりなどで情報発信し、努力した生徒を学校・家庭・地域一体となって伸ばせるようにしていく。